

岐阜県神社関係者大会開催



令和6年4月24日 於 長良川国際会議場



発行所 岐阜県神社庁
岐阜市数田南3-8-24
TEL 058-273-3525
FAX 058-273-9927
<http://www.gifu-jinjacho.jp/>

印刷 (有)エムシー
岐阜市本荘西4-12-1
TEL 058-253-5931

第六十三回神宮式年遷宮



岐阜県神社庁

府長 可知重彦

(伊奈波神社宮司)

四月八日に、天皇陛下より神宮大宮司が御聽許を賜り、第六十三回式年遷宮に向けて、ご準備が始まりました。当県に於いても御樋代木奉迎送等に関する会議が推し進められてゐます。

第四十代天武天皇がお定めになり、次の持統天皇の御代四年以来「皇家第一の重事」「神宮無双の大嘗」として続けられてきた神宮式年遷宮は、年を定め、国情に合はせてなされました。

前回の御遷宮では、国民総奉贊の中で、一人の神職として、また神道人として理解し、我が国の伝統と歴史文化を考へさせられました。宮廻を改め遷す御遷宮の意味、式年(二十年)、本宗、常若、国民総奉贊等の意味について、いろいろな方々に教へていただき、意義深く、神道の根本を改めて考へる機会となりました。

前例によりますと、明春には御用材を伐り出す御柏山をお定めになり、山口祭・木本祭が斎行さ

れ、本格的に御造営事業が始まります。それに伴ひ、県下では御樋代木奉迎送が行はれることになるでせう。

ご神木は、流送時には、地元民が付知川に堰を作つて水を貯め、ある程度蓄積したところで一気に流したと聞いてゐます。この流送も大正時代発電用のダムができるからは、トラックによる陸送となつてゐます。

時代は移り、日本は国際化する一方、少子高齢化、過疎化も進んでゐますが、この遷宮は、国民の神宮に寄せる真心によつて、変はることなく続いていくでせう。

聖旨を拝して、今回の第六十三回神宮式年遷宮を見据え、それぞれの神社で、支部で、国民としてさらなる活動をしていきませう。

ちはやふる神ぞしらるむ
民のため世をやすかれと祈る心は
どこしへに民やすかれといのるなる
わがよをまもれ伊勢のおほかみ

明治天皇御製

本部長挨拶



神道政治連盟岐阜県本部

本部長 本郷 啓介

(金神社宮司)

く男系男子孫による皇位継承有資格者の確保に向けた国民への理解と世論の形成に引き続き取り組む。また女系継承に繋がる恐れのある、所謂女性宮家の創設には反対し、女性皇族がご結婚後もなお、皇室活動に従事する方途や皇族の御公務の有り方等について、引き続き検討してゆく。

◎自主憲法制定運動

本年元日午後に発生した能登半島地震では多数の死傷者があり、甚大な被害も発生しました。慎んで御見舞ひ申し上げます。

先般、神社本庁に於いて、神道政治連盟中央委員会が開催され、令和六年度事業計画が審議の上可決されました。抜粋して紹介します。

◎皇室の尊厳護持運動

皇位の安定的継承策に関する議論について、国会議員懇談会をはじめ、関係諸団体との連携を一層密にして、旧宮家の男系男子孫と現宮家との養子縁組を可能とする皇室典範の増補、ないしは特例法による制度創設に向けて国会の総意を早期に取りまとめるよう働きかけていく。同時に万世一系の皇室の伝統を護持するべ

く候補に決定されました。

薦候補に決定されました。

岐阜県本部は、中央本部と連携を密にし、活動して参ります。皆様方のご理解とご支援、ご協力を宜しくお願ひ致します。

神宮大麻曆颁布終了奉告祭

岐阜県神社関係者大会

三月七日、神社庁神殿に於いて、神宮大麻曆颁布終了奉告祭を斎行した。神社庁役員・総代会役員・各支部長・事務長が出席し、斎主は谷田吉暢副序長が務めた。

大会に先立ち、午後一時より、

神宮参事音羽悟氏による講演を行った。演題は「伊勢神宮の森と持続可能な自給自足の精神及び御

柿山の変遷について」であった。

第六十三回神宮式年遷宮と、特に岐阜県で行はれる御桶代木奉迎送



を控へ、神宮式年遷宮を絶へることなく護持継承していくための取組みについて説明していただいた。

県内神社関係者の、更なる神宮奉賛の気運醸成に資することができた。

講演後の大会では、来賓として、

神社本庁常務理事鷹司尚武氏御名代の神社本庁常務理事藤江正謹氏、神宮大宮司久邇朝尊氏御名代の神宮参事音羽悟氏に御臨席いただいた。

御桶代木奉迎送について、神宮奉賛の更なる気運醸成を期すべく、記録映像を用ひて前回を振り返りながら、現在の状況や今後の動向等を確認した。

四月二十四日、長良川国際会議場に於いて、県内の神社関係者が集ふ県大会を開催した。八二八名の参加があつた。

第六十三回神宮式年遷宮と、特に岐阜県で行はれる御桶代木奉迎送

を控へ、神宮式年遷宮を絶へることなく護持継承していくための取組みについて説明していただいた。

県内神社関係者の、更なる神宮奉賛の気運醸成に資することができた。

講演後の大会では、来賓として、

神社本庁常務理事鷹司尚武氏御名代の神社本庁常務理事藤江正謹氏、神

宮大宮司久邇朝尊氏御名代の神宮参事音羽悟氏に御臨席いただいた。



神宮遙拝・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和に統いて、長年に亘って功労があつた方々の表彰を行ひ、府長式辞・来賓祝辞・被表彰者謝辞が述べられた。

協議では、次の三議題が提案された。

一、氏子意識を基本とする共同体意識の涵養とともに神社の公共性を顕現し、地域共同体との連携を深め、神社と地域の活性化に努める。

最後に、神社総代会桑原善吉会長の発声による聖寿万歳で締め括った。

四月八日の御聴許を受けて、五月二十八日、神社庁研修室に於いて、第六十三回神宮式年遷宮に向けた、第一回御樋代木奉迎送打合会を開催した。神宮より、禰宜久田哲也氏・宮掌山口武徳氏にお越しいただき、神社庁役員及び県内

一、皇室敬慕の念の更なる醸成に努めるとともに、次期神宮式年遷宮を見据えた神宮奉贊の意義啓発に努める。

一、「三大神勅の心」を次世代に継承すべく、神話教育の充実を図り、伝統文化の普及に努める。

以上の議題について、一題目は神社庁服部哲夫五県評議員、二題目は飛驒天満宮細江雅紀宮司、三題目は神道振興会長谷川悠副会長が、提案理由を説明した。続いて、神社庁上月智也理事が大会宣言案を朗読し、三議題・宣言案いづれも満場の拍手を以って承認された。

第一回御樋代木奉迎送打合会

神職祖靈殿祭 協議員会・事務長会



神宮禰宜 久田哲也氏 挨拶

各支部の支部長・事務長が出席した。

始めに、久田哲也氏より御挨拶をいただき、その後、県内の諸行事を行ふ場所について、各支部から提案があった。

・郡上市支部

白山中居神社 宮司 上杉皓一郎

若宮八幡神社 宮司 西神頭安彦

諏訪神社 宮司 平澤 勤

・郡上市支部

白山中居神社 宮司 上杉皓一郎

若宮八幡神社 宮司 西神頭安彦

諏訪神社 宮司 平澤 勤

六月定例協議員会が開催された。続いて、神社庁研修室に於いて、令和六年度神社庁事業計画・歳入歳出予算・協議員定数の三議案が上程され、協議の結果、可決承認された。

午後開催の事務長会では、協議員会で承認された事項及び事務手続きや負担金について、説明を行つた。



可知重彦府長 挨拶



・各務原市支部
神職祖靈殿合祀者（敬称略）
・各務原市支部
加佐美神社 宮司 川島 繁樹

令和5年度 神宮大麻頒布表

| | 神宮大麻 | 神宮中大麻 | 神宮大大麻 | 頒布数 | 過去三年 平均頒布数 | 比較増(▲減) |
|-------|--------|-------|-------|--------|---------------|---------|
| 岐阜市 | 35,712 | 1,549 | 71 | 37,332 | 38,384 | ▲ 1,052 |
| 高山市 | 11,263 | 176 | 13 | 11,452 | 11,454 | ▲ 2 |
| 大垣市 | 9,665 | 255 | 6 | 9,926 | 10,027 | ▲ 101 |
| 多治見 | 7,140 | 316 | 16 | 7,472 | 7,671 | ▲ 199 |
| 関市 | 7,878 | 510 | 37 | 8,425 | 8,436 | ▲ 11 |
| 美濃市 | 4,050 | 100 | 24 | 4,174 | 4,193 | ▲ 19 |
| 美濃加茂市 | 4,902 | 233 | 42 | 5,177 | 5,333 | ▲ 156 |
| 瑞浪市 | 5,626 | 365 | 68 | 6,059 | 6,477 | ▲ 418 |
| 各務原市 | 11,900 | 570 | 137 | 12,607 | 13,654 | ▲ 1,047 |
| 中津川市 | 11,140 | 651 | 120 | 11,911 | 12,259 | ▲ 348 |
| 羽島 | 13,814 | 250 | 49 | 14,113 | 14,581 | ▲ 468 |
| 海津市 | 5,617 | 116 | 15 | 5,748 | 5,994 | ▲ 246 |
| 養老上石津 | 6,050 | 91 | 45 | 6,186 | 6,300 | ▲ 114 |
| 不破郡 | 6,200 | 550 | 30 | 6,780 | 6,647 | 133 |
| 安八郡 | 6,360 | 290 | 22 | 6,672 | 6,863 | ▲ 191 |
| 揖斐郡 | 9,838 | 593 | 30 | 10,461 | 10,810 | ▲ 349 |
| 本巣郡 | 11,091 | 424 | 59 | 11,574 | 12,117 | ▲ 543 |
| 山県市 | 4,184 | 297 | 31 | 4,512 | 4,732 | ▲ 220 |
| 武儀 | 2,686 | 824 | 37 | 3,547 | 3,725 | ▲ 178 |
| 郡上市 | 9,163 | 281 | 30 | 9,474 | 9,691 | ▲ 217 |
| 加茂郡 | 10,020 | 744 | 151 | 10,915 | 11,158 | ▲ 243 |
| 可児 | 8,130 | 350 | 47 | 8,527 | 8,908 | ▲ 381 |
| 土岐 | 7,920 | 179 | 43 | 8,142 | 8,546 | ▲ 404 |
| 恵那市 | 6,794 | 469 | 136 | 7,399 | 7,840 | ▲ 441 |
| 益田 | 0 | 6,626 | 140 | 6,766 | 7,046 | ▲ 280 |
| 大野 | 0 | 4,654 | 108 | 4,762 | 4,771 | ▲ 9 |
| 吉城郡 | 6,710 | 1,220 | 29 | 7,959 | 8,670 | ▲ 711 |

岐阜県神社庁 令和6年度 岁入歳出予算

令和6年7月1日～令和7年6月30日

【歳入】

| | | |
|---|-------|--------------|
| 1 | 幣帛料 | 900,000円 |
| 2 | 交付金 | 130,100,000円 |
| 3 | 神殿初穂料 | 100,000円 |
| 4 | 負担金 | 33,970,000円 |
| 5 | 財産収入 | 1,000円 |
| 6 | 諸収入 | 20,700,000円 |
| 7 | 前期繰越金 | 13,000,000円 |
| | 歳入合計 | 198,771,000円 |

【歳出】

| | | |
|---|------------|--------------|
| 1 | 幣帛料 | 3,000,000円 |
| 2 | 神宮神徳宣揚費交付金 | 50,000,000円 |
| 3 | 会議費 | 5,350,000円 |
| 4 | 神事費 | 2,800,000円 |
| 5 | 庁費 | 52,000,000円 |
| 6 | 事業費 | 24,160,000円 |
| 7 | 負担金 | 39,000,000円 |
| 8 | 積立金 | 18,050,000円 |
| 9 | 予備費 | 4,411,000円 |
| | 歳出合計 | 198,771,000円 |

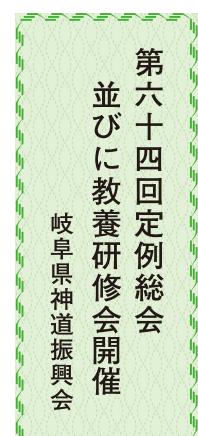
**県下全域に「敬神婦人の輪」
を拡げませう!!**

岐阜県敬神婦人会連合会
会長 白橋 美智子

天照大神の御心を体して、

天皇陛下は国民を「大御宝」（オホミタカラ）と仰せられ、その幸せを、常に祈つておいでになります。また、私どもの住む地域では、それぞれ氏神様を祀つてゐます。

私どもはこれらの神様に守られて生きてゐます。このことを心にしつかり受けとめ「敬神崇祖」の生活を実践しなければなりません。令和の時代を迎へて六年になります。日本の心「清明心（きよき・あかき・心）」をもつて敬神崇祖の生活を生きる婦人の輪を拡げたいと存じます。



第六十四回定例総会 並びに教養研修会開催

岐阜県神道振興会



スマートフォンは誰もが携帯する時代になりました。インターネットを使っての宣伝も必要な時代になりました。今後の課題です。神社関係者の皆様の「敬神婦人会立ち上げ」へのご支援ご協力、心より切にお願ひ申し上げます。

各神社には是非「敬神婦人会」を結成して頂き、報恩感謝の生活、倫理感の高い社会、道義あふれる國を築きあげていく、明るく・楽しいあたたかいグループ・仲間として活動をしていきたいと考へてをります。

各神社の婦人会会員も減少傾向を行つた。

二月二十七日、伊奈波神社参集所に於いて、中濃地区が当番となり、第六十四回定例総会並びに教養研修会を開催した。

定例総会に先立ち、教養研修会講師、参加者三十四名で正式参拝を行つた。

各神社には是非「敬神婦人会」を結成して頂き、報恩感謝の生活、倫理感の高い社会、道義あふれる國を築きあげていく、明るく・楽しいあたたかいグループ・仲間として活動をしていきたいと考へてをります。

各神社の婦人会会員も減少傾向を行つた。



その後開催された教養研修会では、「未来ある若手神職のみなさんへ」を主題にして、元神宮職員の宮原美樹先生よりご講義頂いた。時代が進むにつれて社会の在り方が大きく変化する中、かかる変化に対応すべく、伝統を守るだけではなく、よりよい未来を見据ゑて解釈を深めて更新していく必要があることを教へていただいた。次期

神宮式年遷宮諸行事予定を前に、神宮の沿革や祭祀、神宮大麻についての知識を深めることができた。伝統文化の護持伝承を神職の責務と自覚し、奉務の心得を新たに、奉仕の後押しとなる教養研修会となつた。

研修会終了後、同会場にて定例総会を開催した。

会員の宗宮和史君を議長に、令和五年度事業報告、決算、令和六年度事業計画、予算が承認された。

定例総会では、本年一月一日に発生した能登半島地震について、共有できる情報や、会として行ふ復興支援の計画について質問があつた。それに対し、被災地の状況や、地震発生後の一月三日に支援の依頼があり、一月四日に飛騨地区の会員が支援物資を届けた件などの報告があつた。今後も神道青年全国協議会、神道青年東海地区協議会を通じて情報を共有し、支援の依頼などがある場合は、その都度役員にて協議し、対応する旨を伝へた。

岐阜県女子神職会活動報告

令和五年十一月二十四日に海津市平田町の今尾神社に於いて、教養研修会を開催した。正式参拝の後、徳橋稚子宮司より神社の由緒について伺った。その後、國學院大學講師徳橋達典先生による

「万葉集から古今集の時代へ女流歌人の行方」の講演を拝聴して、当時の女流歌人について学ぶことができた。

午後には、同町の千代保稻荷神社に自由参拝した後、参道脇にある国指定重要文化財の早川家住宅を見学した。江戸時代の豪農の暮らしを窺ひ知ることができた。

東海地区女子神職研修会は、三月七日に、三重県の当番で行はれた。午前は、神宮参事音羽悟先生の案内により、豊受大神宮を参拝してから、式年遷宮記念せんぐう館を見学した。精緻を極めた御神宝に魅せられた。

午後からは、音羽悟先生による「伊勢神宮の四季折々の魅力について」の講演を拝聴した。「神宮には多種多様な桜が植ゑられて

り、参拝者が長期に亘り桜を楽しむことができるやうに配慮される。式年遷宮の伝統を守る上でも神宮宮域林の役割は大きい。」と述べられ、「森を育み大自然の恵みを大切にしてゐる神宮に来て、見て、感じていただきたい。」と話された。

女子神職会では、共に学び共感して交流し合へる会員を募集してゐます。入会を希望される方は、連絡下さい。

(☎)〇五八四一二一一三六九二)

女子神職会会長 服部直美までご連絡下さい。

今年度にて、指定神社三年目の最後の年になつた。一年目と二年目は、主に施設の整備を行つたが、三年目に入り、例祭に参加する氏子の子供たちを育成することを考えた。

三月に入つて、小・中学生を対象にして「浦安の舞」の講師を氏子のご婦人にお願ひした。子供たちは、学校での部活があつて、練習日の確保がなかなか難しかったが、その中でも土・日曜の集まる日を決めて参加してもらつた。

高校生には、若社中に参加して盛り上がつた。講師は子供の時に舞つたことのある二・三十代の方にお願ひした。

また、闘鶏樂の練習も始まつた。講師は子供の時に舞つたことのある二・三十代の方にお願ひした。高校生には、若社中に参加して盛り上がつた。



過疎地域神社活性化推進施策

飛騨市古川町 太江地区

高田神社 宮司 田近 和清

また、SNSで例祭の案内等を発信し始めた。本庁での過疎地域神社活性化推進施策研究会で、これを利用して参拝者が増えたといふ成果を耳にしたからである。その結果、ありがたい事に新潟・京都等、遠方からの参拝者があり、また、名古屋の方からも、四月二十八日の例祭前日に、見学したいとお願ひがあつて、当日見学して頂いた。その夕刻、又来年も参加したいとの言葉を頂いた。

今年の例祭には、境内駐車場にキッチンカーを入れ、子供たちの参列を呼びかけ、沢山の参拝者を集めました。

三カ年に亘る本施策で実施した事業については、左のとおりである。

- ・1年目
 - ・祭礼用備品等整備
 - ・拜殿高欄補修
 - ・濡れ縁板補修
 - ・参拝者用駐車場舗装
- ・2年目
 - ・拜殿鰹木補修
 - ・参道石階段手摺新設
 - ・シロアリ対策
 - ・境内上水道漏水補修

- 三年目**
- ・祭礼用備品等整備
 - ・幣殿床板補修
 - ・拜殿裏敷地石積補修
 - ・雪囲ひ固定壠新設
 - ・子供用衣装更新
 - ・舞姫・采女衣装更新
 - ・闘鶏樂用一文字笠更新
 - ・獅子舞油單更新
 - ・獅子舞用太鼓張替

以上のやうに各事業を実施したこと、また、神社本庁で開催された過疎地域神社活性化推進施策研究会に出席し、他の都道府県の活動報告を伺つたことは、この三年間の反省点や、本施策終了後も計画的・長期的に神社を活性化させていくための展望を考へる良い機会となつた。

高田神社は、豊かな自然に恵まれた場所に鎮座してゐる。しかし、それ故に冬季は特に過酷な自然災害を被りやすく、社殿や境内の補修・整備への対応が優先された。また、祭礼用備品は、伝統ある神事で長年使用し続けてゐるため、傷んでゐるものが多く、修繕や新調する必要があつた。いづれも必要な事業であつたが、神社を

支へていただきてゐる氏子の育成や神社を取り巻く環境の活性化にも、より力を入れるべきであつたと反省してゐる。

この三年間、過疎地域神社活性化推進施策の指定神社の宮司として、役員と協力し合ひ、氏子に支へられながら活動してきた。僅かながらも高田神社は着実に活性化してをり、例祭の盛り上がりからも成果を感じてゐる。様々な課題や反省点も発見することができ、本施策は、高田神社にとつて非常に意義あるものとなつた。

1年目 駐車場舗装



施工前

施工後

3年目 拝殿裏石積補修



施工前

施工後

2年目 拜殿鰹木補修



施工前

施工後

社寺建築◆御調度品◆御装束

神社・寺御用

株式会社甲村

〒463-0075 名古屋市守山区新守西1608
 電話代表 (052) 792-1202
 FAX (052) 792-1293 JR新守山駅店

建築部 国宝・重要文化財保存修理工事・社寺建築工事
屋根部 檜皮葺・柿葺・銅板葺(屋根形木工事)**田中社寺株式会社**

代表取締役 田中敬二

(株)丸繁建築設計事務所

〒500-8483 岐阜市加納東丸町2丁目20
 電話 (058) 272-2871(代)
 ※御見積書等・御一報次第参上致します。

神社・仏閣建築請負
設計施工、神棚、神具**(有)白鳳社寺**
(旧 唐箕屋社寺工務店)

鵜工房一級建築士事務所 高崎勝則

岐阜市金園町4丁目3番地 電話 (058) 264-0068
<https://hakuhoushaji.com>

社殿・神棚・神祭具・御装束・製造販売

株式会社富田神具

〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐1385番地
 TEL(0584)22-5320 FAX(0584)22-5978
<http://www.tomida-shingu.co.jp>

神具 裝束

大正七年 創業

助藤屋 助右衛門

〒509-1622 下呂市金山町金山2051
 TEL 0576-32-2074 FAX 0576-32-2039

太鼓作り900余年 本木製ならではの品格と質の高さは最上級

原木・原皮からの
一貫生産
工場直売



在庫豊富
各品速納
カタログ送付

諸太鼓製造元 津島神社他多数御用達
 ○神社・仏閣・教会用○雅楽・能楽用各種○祭礼用・舞台用・他

堀田新五郎商店

☎(0567) 26-2412(代)

愛知県津島市下新町5丁目123 FAX 24-7663

<http://hottashingoro-taiko.com> E-mail:shingoro@pony.ocn.ne.jp

[事業内容] 神社建築設計施工・社殿製作・神棚・御靈舎製造販売
神祭具・内陣調度品、おみこし製造販売・レンタル神輿

古の伝統 受け継がれる技 繋ぎ上げた信頼



創業明治二十八年

株式会社唐箕屋本店

〒500-8104 岐阜県岐阜市美園町3丁目4番地
 TEL(058)263-3311 FAX(058)263-4300
<http://www.tomiyahonten.com>
 E-mail info@tomiyahonten.com



伊勢名物 **赤福**

本店
 〒516-0025
 伊勢市宇治中之切町26番地
 電話 0596-22-2154(代)
 フリーダイヤル 0120-081-381
<https://www.akafuku.co.jp>

神社・仏閣・灯籠・記念碑・
墓石・造園・他石材工事一式

JAいび川指定業者

**松井石材**

岐阜県揖斐郡大野町稻富2348
 電話 (0585) 32-1114 FAX (0585) 34-1196

社寺一般建築請負
岐阜県伝統建築認定第3号**堀堀部建設株式会社**

岐阜市芥見堀田57番地
 TEL (058) 243-1715
 FAX (058) 241-2567

総代研修会を開催

多治見支部 支部長 須永 啓之

五月二十日に、本土神社に於いて「総代奉務心得」・「祭式実技・基本作法」について、総代研修会を実施した。コロナ禍で五年ぶりに開催し、四十名が受講した。

当支部では、近年総代の世代交代が進み、全体的に若返った。また、外国の方も総代に加はって、国際色ある研修会となつた。



午前の講義では、神社序祭式講師黒田和朗先生より「神社役員総代研修資料」を用ひて、役員の任務、神宮式年遷宮の祭典と行事について説明を受けた。



午後の講義では、神社序祭式講師小嶋抄仁先生より、手水の作法、神饌の種類や順序、三方の持ち方と授受等を詳しく説明していただき。

いた。

地域の文化として祭りを伝承していくかなければならないといふことや、また、それ

に必要な心得・作

法について、総代が理解を深める良き機会となつた。



研修の成果を今後の奉仕に活かしていくとの言葉が多数寄せられた。

この研修会をきっかけに、産土神社を身近に感じ、第六十三回神宮式年遷宮への関心が広がることを願ふ。



コロナ禍では関係者のみで行つてゐたが、昨年から再び崇敬者を募り、本年は約四十名が参集した。立夏の晴天の中、午前中は昨冬のが盛大に執り行はれた。御田植神事は、平成二十九年に

「伊勢錦」の種糲を県内の方から頂戴したことを機に始まり、以降、神送祭の斎行日に、氏子を中心に行はれるやうになつた。地区内では、すでに稻作は行はれてゐなかつたが、当時の神社役員が、三畝(約三〇〇平方メートル)の土地の提供を申し出てくださり、斎田とした。収穫されたお米は御神饌として、また、稻藁は氏子による注連縄作りに使はれる。



当地区は多聞に漏れず、過疎化、高齢化の進む地域であるが、その中で、斎田の復活、維持管理にご尽力くださる氏子の皆様の奉仕の真心は、誠に貴いものである。また、我が国の神祀りの本道である米つくりを、神社祭祀の中に置くことで、氏子崇敬者の方々に、体験を通じて、神道をより深く理解していただき、良き御神縁を御祝びいただけるやう、末永く続けていきたい。

神事を斎行した。その後、植ゑ方が汗を流しながら斎田に手植ゑをして、午後からは、白山大神を嚴肅裡に御山へお送り申し上げた。



交通安全祈願祭

各務原市支部
支部長 浅野 義一

一月十七日、各務原市中央ライ
フデザインセンターにて、支部主
管により、各務原市交通安全祈願
祭を斎行した。年頭に於いて、市
交通安全協会をはじめ多くの関係
団体が参列し、交通事故減少、死
亡事故ゼロを目指して、市交通安

全式典に合はせて毎年行つてゐる。

昨年はコロナ禍が明け、物損事
故が急増した。社会生活が元通り
となり、車で出かける機会が増え

六月四日、岐阜県神社庁にて、
各務原市支部が当番となつて、中
濃地区神職研修会を開催した。
四月八日に畏き廻より神宮式年
遷宮についての御聴許があつた。
そこで、各務原市支部では、前
回の遷宮に於いて御山神社とし
て奉仕された倉本豊氏を講師とし
て研修を行つた。

倉本氏からは、公募があつて名
乗りを上げたことや、初めは斧から
探す必要があつたこと、また、三
ツ紐伐りといふ特殊な伐採方法を
何度も練習を重ねて習得した後に
当日を迎へたことなど、貴重な体

たことが要因として考へられる。
市内の賑はひが戻る喜ばしさと合
はせて、交通安全についても、より
啓發していく必要性が伝へられた。
死亡事故がなくなることはもと
より、物損事故であつても一歩間
違へれば大きな事故につながつて
いくため、参列者は心を一つに一
年の交通安全を約束した。

中濃地区神職研修会

各務原市支部
支部長 浅野 義一

賢き大御心を戴き、常に古儀を
重んじて、祭祀を連綿と営んでき
た神宮に於いて、国家国民の平安
を祈つて行はれてきた式年遷宮
は、國家の重儀として繼承されて
ゐる。神職のみならず、国民総奉
贊のもとに斎行されるやう、広く
啓發が必要である。

験をお話しいただいた。

重んじて、祭祀を連綿と営んでき
た神宮に於いて、国家国民の平安
を祈つて行はれてきた式年遷宮
は、國家の重儀として繼承されて
ゐる。神職のみならず、国民総奉
贊のもとに斎行されるやう、広く
啓發が必要である。

数年前から神社関係者の間で少し
づつ話を出し、昨年十一月の中津

川市支部神宮大麻領布式では、「神宮式年遷宮と御神木祭」と題

して、前回・平成十七年の様子を
中心に、その奥底に潜む心性などを
紹介した。

御神木祭への取り組みによつ
て、地域が盛り上がり、奉贊の気
運が醸し出されること、更には日
本文化に通底する祈りが看取され
ることを期待したい。

○大正九年(1920)伐採の御神木・御



神宮式年遷宮

中津川市支部
護山神社 宮司 田口 豊年

昭和四年遷御)までは、伊勢湾ま
で「川流し」で運んでゐた。付知
川から木曽川へ流し、八百津で筏
に組んだのである。水量の少ない
付知川では水を貯める堰堤を築き、
そこに詰める苔を子供達が集めた
といふ体験談が伝はつて來り、地
域ぐるみの営みだつたことが解る。

左は、第五十九回から第六十二
回までの、御神木の写真である。

四月八日に、第六十三回神宮式
年遷宮の御聴許があつた。御山神
社の御治定は来春であるが、地元と
して奉賛の気運を盛り上げるべく、



第59～62回 神宮式年遷宮御神木紹介

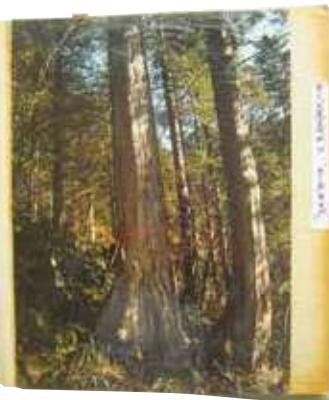


○昭和16年(1941)(第59回昭和28年遷御)
森林鉄道で山出し、北恵那鉄道と国鉄で
木曽川のダムを迂回した後、
川流し。

鉄道での搬送はこの1回
のみであった。



○昭和40年(1965)(第60回昭和48年遷御)
トラックで搬送(北恵那鉄道は木曽川橋梁
の嵩上げ工事中)。以降トラックとなる。



○昭和60年
(1985)(第61回
平成5年遷御)
出の小路原生林に
屹立する御料材



○平成17年(2005)(第62回平成25年遷御)



平成二十九年十月三十日には、既に次期（第六十三回）式年遷宮が行はれてゐる。大量の木材を準備する必要上、前もつて伐採を始めるのが慣例である。

その御木をお借りして、護山神社で神事と御木曳（平成二十九年十一月四日）を、また、中津川市の六斎市で御木曳（平成二十九年十一月五日）を斎行した。

美濃と木曽の山々が神宮式年遷

宮御用材の御杣山となつた歴史を、

『神宮御杣山記録』（第一巻、神宮司序）でたどると、（西暦・傍点は

筆者）《弘安八年（1285）皇大神宮第三十

二回式年遷宮》の項に所載の「中

院一品記」に「雖望申美濃國・柏、

不及勅許」とあり、この頃から候補に上つてゐたことが解る。

次に、《興国六年（貞和元年）（1345）

豊受大神宮第三十五回式年遷宮》

（1341）十月廿八日宣旨云、造伊勢・豐受太神宮御杣、可為美濃國白河・山者。」

また《正平十九年（貞治三年）（1364）

皇大神宮第三十六回式年遷宮》の

〔愚管記〕に、「今度者、美濃國、

北・山付茅山両山之間、被下之云々」とあつて、南北朝時代初期には美濃・木曽から出てゐた。

その歴史は既に七百年近く、御遷宮千三百年の半ばとなる伝統がある訳だが、忘れっぽく飽きやすい人間の性を顧みて、神宮式年遷宮に籠められた祈り、日本人の幾百世代に渡る生活の積み重ねから生れ、無意識の風俗となるまで洗練されてきた智慧や感性を、この機会に思ひ返したいものである。

冊子『田代神社の算額』 神道文化会より表彰される



養老町高田鎮座の田代神社には天保十二年（一八四二）奉納の算額（江戸時代の和算の問題や解答を掲載した絵馬）がある。この算額は芸術的にも学問的にも当時の項の「師守記」に、「（歴応）

役員・総代の協力と、数学や歴史学の専門家の助けを得て、冊子

『田代神社の算額』江戸和算文化の真髓を伝える』を編集し、令和五年十二月に刊行した。

同書は望外の好評をいただき、

高い算額を広く紹介すべく写真・翻刻・訓読文や現代語訳をはじめ

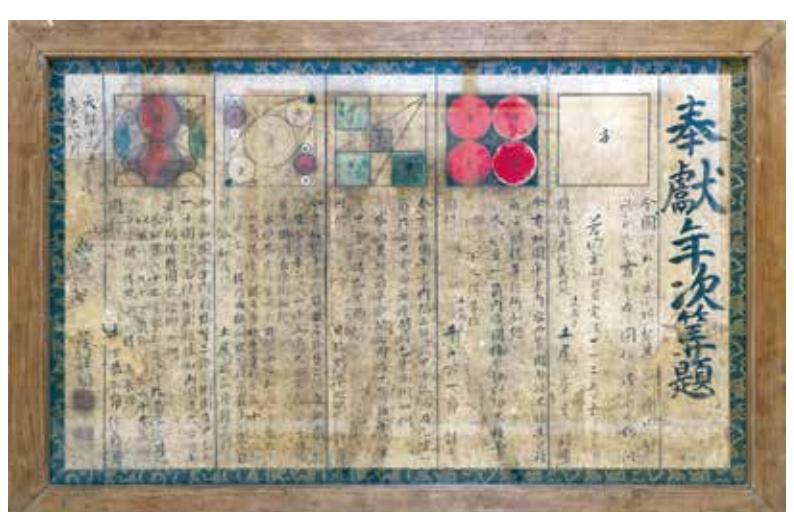
自ら執筆した英訳を掲載するなど

文化財に指定されてゐる。

私は、この算額の価値を広く

知つてもらふことを目的に、神社

とあって、南北朝時代初期には美濃・木曽から出てゐた。



表彰式は五月二十四日、東京大神宮で行はれ、田中会長より表彰の栄に浴した。

表彰状には、授賞理由として「昨今外国の数学者からの関心も高い算額を広く紹介すべく写真・翻刻・訓読文や現代語訳をはじめ

自ら執筆した英訳を掲載するなどその内容は評価すべきもの」と記され、表彰していただくことになつた。

完成まで約二年をかけた苦労が

報はれた思ひであった。お世話になつた方々、わけても本書制作にあたつて助成金十万円を支給してくださつた養老上石津支部には改めて感謝申し上げ、喜びを分かち合ひたいと思ふ。

本書により、江戸時代、算額の奉納を受けることによつて、神社が日本の数学文化の発展にいかに寄与したかが明確にわかる。

算額を見学したい方は、大橋裕幸（**（△）**五八四一三三一〇六五四）までご連絡ください。

能登震災復興支援

不破郡支部 南宮大社

四月二十五日、南宮大社の神職、氏子青年会の有志十六名が、石川県穴水町で、地元では穴水大宮と呼ばれ、敬ひ親しまれてゐる邊津比咩神社での復興支援活動を行つた。

人々が賑はひをみせる一月一日に能登半島を襲つた震度七の大地震は斯界にも大きな打撃を与へた。境内の建物などの被害のみならず、氏子の被災によつて共同体の機能不全が起つた。



四月二十五日、南宮大社の神職、氏子青年会の有志十六名が、石川県穴水町で、地元では穴水大宮と呼ばれ、敬ひ親しまれてゐる邊津比咩神社での復興支援活動を行つた。

人々が賑はひをみせる一月一日に能登半島を襲つた震度七の大地震は斯界にも大きな打撃を与へた。境内の建物などの被害のみならず、氏子の被災によつて共同体の機能不全が起つた。

今回、支援に向かつた穴水大宮も崩壊してゐた。しかし、氏子も自身の生活で精一杯となつてをり、神社のことは後回しとなつてゐた。

そのやうな中、穴水大宮では同月二十九日に例祭が控へてゐたが、境内整備が進んでゐなかつた。支援に向かつた一同は、落ち葉拾ひや草むしり、参道が通れるやう、倒壊した鳥居を撤去するなど、例祭の一助となるべく活動を行ひ、

義捐金をお渡しした。

能登地域の復興に思ひを寄せるだけでなく、現地に赴いて一人一人が僅かでも自身にできることで能登を支援したい。能登の地に日常が戻り、そして祭祀ができるやうに支援を行ひ、一日も早く再建することを祈念する。

研修内容は神社祭式及び同行事作法であった。研修資料として、

神社序発行の「神社役員総代研修資料」、神社本序発行の「神社総代のすすめ」、養老上石津支部発行の「神明奉仕の手引き」等を参考して、研修内容は神社祭式及び同行事作法であった。研修資料として、

神社序発行の「神社役員総代研修資料」、神社本序発行の「神社総代のすすめ」、養老上石津支部発行の「神明奉仕の手引き」等を参考して、研修内容は神社祭式及び同行事作法であった。研修資料として、

山県市支部

支部総代研修会

現在は、祭礼の始めから神饌が供へられてゐる神社が多くなつてゐるので、祭具の説明から入った。三方の説明から始まり、持ち方、受け渡し方の作法、前後の礼の仕方など、今までに経験のない役員や、四月から新しく役員に任命される方もあつたため、三方の前後の向きなどもわからない方もあり、難しいと話される人もあつた。玉串奉奠の作法は全員の方に行つてもらつた。

大日堂改築であり、市内の宮大工の新木工務店の優れた技術により立派に完成した。以前の大日堂は享保四年（一七一九）の建立で老朽化が進んでゐたので、この機に改築することとなり、御堂解体のお祓ひ、南泉寺住職による精抜き供養、地鎮祭、上棟祭、完成の清め祓ひの後、開眼落慶法要を務めていた。大日堂には、平安時代から江戸時代にかけて造られた大日如来他五体の仏像が安置されており、神仏習合時代の遺物として、歴史的にも貴重である。

山県市大桑鎮座の十五社神社では、令和五年十月八日の例祭において、大日堂の完成による竣工奉告祭が斎行された。



大日堂改築であり、市内の宮大工の新木工務店の優れた技術により立派に完成した。以前の大日堂は享保四年（一七一九）の建立で老朽化が進んでゐたので、この機に改築することとなり、御堂解体のお祓ひ、南泉寺住職による精抜き供養、地鎮祭、上棟祭、完成の清め祓ひの後、開眼落慶法要を務めていた。大日堂には、平安時代から江戸時代にかけて造られた大日如来他五体の仏像が安置されており、神仏習合時代の遺物として、歴史的にも貴重である。

今後は、第二期工事として令和七年度に、徳川綱吉公の命により造営がされた県指定重要文化財にさるてゐる本殿周りの彫刻修理を、岐阜県及び山県市の助成を受けて実施し、令和八年秋に「創建千二百年奉祝祭」を斎行する予定である。



山県市大桑鎮座の十五社神社では、令和五年十月八日の例祭において、大日堂の完成による竣工奉告祭が斎行された。

梅原鎮座の加茂神社は、平安時代に、賀茂御祖神社（下鴨神社）の莊園があつた縁で祀られた。今でも葵祭と御蔭祭には鮎の塩漬を奉納してゐる。

五月十五日の賀茂祭社頭の儀の招待があり、毎年数名で参拝して奉祝委員会を設立し、奉賛金を募る。第一期工事として進めたのが

平安遷都の後、國家鎮護・京都の守護神となり、天皇が内親王を賀茂社に遣はされて以来、内親王を

を斎王とした葵祭は国をあげた祭となる。祭に参加する全員が葵の枝葉を身につけて、京都御所を平安以来の古儀に従つて、総勢五百数十名の行列が出発し、下鴨神社に到着し、社頭の儀が行はれる。

近衛代・斎王代の行列が楼門に入り、最後に勅使が入られる。その後、舞殿に昇られ祭文の座に著坐。御幣物を中門前左右の案上に置かれる。勅使は微音にて紅色の御祭文を奏上、宮司と権宮司が御幣物を本殿に納める。権宮司は大神からの賜りものである神禄の葵の桂を舞殿の北庭の案上に置き返祝詞を申し上げる。平安朝以来の古儀のままに勅使と拍手を打ち合ふ。次に宮司は神禄を捧げ持つて舞殿に昇り、勅使に授ける。勅使が舞殿より退下されると拝礼が始まると。京都御所所長、知事、市長、糺ノ森保存会、京都府神社庁長、勅祭社等続く。陪從が歌を唱へると歌に合はせて舞殿の周りを神馬二頭を三回引き廻す。次に舞人が舞殿に昇り東游が舞はれる。舞が終はると社頭の儀は終了し、勅使は退下される。勅使の入退出と御祭文奏上時は全員起立し、頭を垂

れる。祝詞が終はると、一般では玉串奉奠を行ふが、社頭の儀では拝礼を行ふ。作法は正装の上、舞殿の前まで進み、深く一礼する。

全国加茂神社代表としてモーニングコートを着用して拝礼を行つた。私が代表とは考へられない事であるが、先人が何百年前より本宮を敬ひ、少しばかりの奉納で縁を継いできた御蔭であると感謝してゐる。葵祭の流れをもつ当神社の例祭を時代に合はせたやり方で続けていくことを同行の総代と確認し合つた。



加茂神社宮司 鬼頭英雄

修会を、総勢八十六名で開催した。今回の研修では、平澤克典郡上で行つた。まづ、研修一部では、『神社役員総代研修資料』を活用し、主に、責任役員・総代の役割等について研修をした。研修二部

では、『第六十三回神宮式年遷宮に向けて』と題して『第六十二回神宮式年遷宮（御神木編）』DVDを視聴した。式年遷宮の完遂に向けて国民の真心の結集が必要不可欠であることを学んだ。研修三部では、『祭式研修』を行つた。

郡上市支部でも神職が常駐して

ゐない神社がほとんどで、祭式に於いては氏子総代の奉仕が重要なつてゐる。資料を用ゐながら、

神職の実演を交へて、玉串拝礼、神饌献撤、辛櫛の担ぎ方等について研修をした。研修終了後、支部長より代表者に修了證を授与して、研修は無事終了した。

新たに就任された氏子総代中心の研修であつたが、少子高齢化や過疎化が進み、総代の成り手が減少してゐる昨今に於いて、まづは神社を身近に感じていただき、神職と力を合はせて、神社の護持運

營に努めていただくことを切に願つてゐる。

その一方で世界に目を向けると、未だに争ひは絶えることなく、平穏な日常が脅かされる日々が続いてゐる。改めて、戦争の悲惨さ、平和の尊さを忘れることなく、恒久平和の実現に向け、この祭礼を続けて行きたいと思ふ。



戦没者慰靈祭

吉城郡支部

吉城郡支部では、毎年行つてゐる戦没者慰靈祭を、六月二日に国府町の阿多由太神社にて斎行した。先の大戦に、当支部管内の旧吉城郡より出征し、敢無く身罷つた二〇三八柱の英靈の御靈を慰める大切な祭礼である。神職を始め、各町村の遺族会代表、来賓の三十六名が列席し、厳かに行はれた。



郡上市支部では、五月二十六日、新たに氏子総代に就任した方を中心に、神職・氏子総代合同研修会

神職・氏子総代合同研修会

郡上市支部

戦後、我が国は、平和を願ふ國民の英知と努力によつて、多くの

困難を乗り越え、目覚ましい発展を遂げてきた。しかし、現在当然の様に享受してゐる平和と繁栄が、戦争で亡くなられた方々の尊い犠牲と、遺族の皆様の苦難の歴史の上に築かれたものであることを決して忘れてはならない。

神職異動
(敬称略)

| | ○ 新任 | 一月 一日 | 四月 一日 | 五月 一日 | 六月 一日 | 七月 一日 | 八月 一日 | 九月 一日 | 十月 一日 | 十一月 一日 | 十二月 一日 | |
|---------------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|------|
| 五月二十九日 十七日 | ○ 帰幽 | 岐阜市 | 岐阜市 | 羽島市 |
| 六月 | ○ 退職 | 郡上市 | 養老上石津 | 惠那市 | 可児 | 揖斐郡 | 瑞浪市 | 大野市 | 惠那市 | 武儀 | 美濃市 | 益田 |
| 七月 | | | | | | 岐阜市 | 岐阜市 | 岐阜市 | 吉城郡 | 大野市 | 高山市 | 吉城郡 |
| 八月 | | | | | | | | | 岐阜市 | 高山市 | 岐阜市 | 各務原市 |
| 九月 | | | | | | | | | | 岐阜市 | 岐阜市 | 吉城郡 |
| 十月 | | | | | | | | | | | | 堂殿神社 |
| 十一月 | | | | | | | | | | | | 神明神社 |
| 十二月 | | | | | | | | | | | | 白鬚神社 |

行事予定(八月～十二月)

| | | |
|-----|---|---|
| 八月 | 五月(月) 六日(火) 七日(水) 八日(木) 九日(金) | 東濃地区神社関係者大会 西濃地区神社関係者大会 飛驒地区神社関係者大会 中濃地区神社関係者大会 岐阜地区神社関係者大会 |
| 九月 | 二十日(木)～二十二日(木) | 講習会(権正階)前期 監査会 |
| 十月 | 三十日(金) 一日(火) 三日(木) | 府長副庁長会 臨時協議員会(改選) 役員会 |
| 十一月 | 十一日(木) 十三日(火) 十五日(木) | 役員会 身分審議委員会 協議員会 |
| 十二月 | 二十六日(月) 二十八日(木) | 講習会(直階) 第二回御樋代木奉迎打合会(関係支部) 講習会(権正階)後期 役員支部長会 |

